

今年度「第2回ビハーラ研修会」を開催

うテーマで講演を行い、初めに龍谷大

新たな試みを行っている自治体や寺院の活動を写真と一緒に紹介した。

二月二十五日(火)、ビハーラ高岡では西本願寺高岡会館礼拝堂を会場に本年度第二回ビハーラ研修会が公開講座で多数の一般参加も含む約四十名の参加で開催された。テーマは、「いのちの関係性を考える」

学生の取り組みのひとつ『グチコレ』(路上で相手の愚痴を一方的に聞いていく)を紹介。愚痴を言えるのは相手に対して信頼が持てるからという専門家の声を交えて取り組みの意義を話された。

最後に、東日本大震災から三年を迎え、肉親を亡くした子供に死を伝える時、子供たちのことを考えて、「遠くに旅立った」「空の星になった」という直接、死を伝えない言い方が、子供にとって死を理解できないという事例が多くあることから、どのような場面においても相手にわかるように伝えていくことが大事であるとまとめられ講演は終了した。

支え合う人間関係に学ぶ。龍谷大学文学部教授の吾勝常行先生(写真)を講師に講演及び意見交換会が行われた。

次に、ビハーラ活動について話をされ、ビハーラのもともとの意味である「休息の場所」を説明しながら、これからのビハーラ活動の広がりについて言われ、終末期医療および施設を対象とした活動から、「いのち」の教育機会を提供する社会活動まで幅広く紹介した。その後、身近な人の死から最近気づいたことを通して、「死」の捉え方や「死」をどう考えるかを話され、その中で歎異抄の第九条の親鸞聖人の言葉が、心の支えになったと話された。

その後、意見交換会が行われ、講演内容の質問や普段おこなっている自身の活動からくる疑問を率直に先生に投げかけながら今の日常の活動に役立てようと熱心に聞き入っていた。

先生は、「よりそうつなくわかちあう」

そして、先生が提唱している仏教カウンセリングでは、二週間に一回以下しか会話が

ビハーラ高岡では次年度も引き続き講演会を公開講座で行って行く予定で、様々な方に興味を持ってもらえるような研修会を企画したいと考えている。



がない六十五歳以上の男性が増えていることをあげ、孤立や孤独を予防することへの取り組みや、耳を傾ける場の雰囲気作り等、様々な事例を交えて話され、その中で、ブラジルで行われたフォーラムの中で、参加者全員が輪になりトークをしていく姿や、



門徒推進員研修協議会が開催される

任委員・伏木組主幹)による講義の後、

廣本勝男さん(射水組門徒推進員世話

三月一日、西本願寺高岡会館において門徒推進員研修協議会が開催された。(詳細はP3実践運動のコーナー)

開会式では門徒推進員の委嘱状授与式があり、室崎佐悦さん(系岡組)・岩村弘之さん(系岡組)・大村俊信さん(五位組)・中田正敏さん(若神組)の四名の方が新たに門徒推進員として委嘱された。

今回の研修会のテーマは「門徒推進員の意義と理念の再確認」。総代や講社といった存在がある中で、なぜ門徒推進員を養成する必要があるのか。連研は何を願いとして始められたのかを改めて



確認し、これからの門徒推進員の活動の指針とすることをねらいとして設定されたもの。
講師の林史樹さん(教区委員会常

役)による問題提起があり、「門徒推進員の役割とはなにか?私にとっての門徒推進員像」をポイントに、話し合い法座が行われた。

「僧侶・門徒ともに活動していくことを前提に考えると、やはり寺院との関係をいかに築いていくかが重要。だが、現状では総代にでもならないと、耳を貸してもらえない。」

「独自の活動や立場にこだわらず、門徒推進員としての理念を持った上で、各団体に所属して、その中で活動していけばいいのではないか。」「現状では組の教化団体間の連携がとれておらず、お互いに何をしているのかわからない状態である。組の門徒推進員がそれぞれの教化団体に所属することによって、その橋渡し役となることができのでは。」「など、困難な状況の中で、それぞれに問題意識を持ちつつ、組の現場で悪戦苦闘している様子が出がえるような内容であった。

高岡教区門徒推進員連絡協議会では、この研修と夏に行う「中央教修了者のつどい」の年二回の研修を行っているが、今後も「門徒推進員」とは何か?」「(理念の確認)」と「社会問題への学び」とを継続していくとしている。

仏青教区のつどいが開催

三月六・七日、教区仏青連盟(福田慶隆会長)は教区のつどいを開催。昨年度は、高岡市福岡にある大越仏壇で金箔押し体験を行ったが、今回は石川県白山市にある白山市立鳥越一向一揆歴史館の見学と金沢市高尾にある本願寺派光明寺へ参拝した。

はじめに今からおよそ五百年前、約百年に渡って、「百姓の持ちたる国」であった加賀の国、その資料が展示してある鳥越一向一揆歴史館を見学。あいにくの雪であったが、参加者は、熱心に展示物や当時の状況を映像シアターで放送されているものを視聴した。

続いて、金沢市南部で唯一の本願寺派寺院、光明寺を参拝。副住職から、この寺院の沿革や現在の取り組みを聞いた。石川県の本願寺派寺院で唯一行っているテレフォン法話は十日に一回新しい法話に変えていくことの大変さや、寺報がなぜ住職の手書きになったかを紹介していただいた。また、周辺に本願寺派の寺院がないことで県外から来られた本願寺派の門徒の問い合わせがあることや、これからの寺院の展望について伺った。

その後、金沢市片町へと移動し懇親会が行われ、参加者は、ここで学んだことを中心に大いに語りあった。

今回、はじめて教区のつどいを一泊研修で行ったが、参加者からは来年も是非一泊という声があるなど好評のうち終了した。

教区仏青連盟は、若い人達に仏教を興味もってもらおうと今後も様々な形でアプローチをしていきたいとしている。

御同朋の社会をめざす運動の「コーナー」

門徒推進員とは、「生き方」そのもの

二〇二二年三月二七日に策定された「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）総合基本計画」には、「運動の願い」として、

浄土真宗本願寺派では、一九八六年より「御同朋の社会をめざす」という目標を掲げ、「基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）を進めてきました。このたび、その成果を継承し課題を克服するため、運動名称を「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」と改め推進することとなりました。（中略）「御同朋の社会をめざす運動」とは、いのちの尊さにめざめる同朋一人ひとりが自覚を深め、浄土真宗のみ教えを社会に広め実践していく活動です。

と述べられています。ここでは、実践運動とは「これまでの基幹運動の（成果を継承し課題を克服するため）」に推進すると謳われています。しかし、実践運動については、「公益性」「社会貢献」を看板に浄土真宗の教えを社会に広めていく自己宣伝（アピール）運動ではないかとの声が多く寄せられているのも事実です。

運動の具体的内容を示す「重点プロジェクト基本計画」に、「私と教団の差別の現実を改める」「基幹運動の理念がどこにも見当たらない」というのがその理由だと聞きます。

運動の変容は、門徒推進員の存在意義や活動理念そのものにも影響を及ぼすものと考えられます。これまで門徒推進員とは、「教団の基幹運動を僧侶とともに実践する門徒」と定義されてきました。しかし、現在は「実践運動を推進する者」（「門徒推進員規程」第二条 二〇二二年四月二日施行）とされています。「運動名称が変更されただけで、今までと変わりはない」というには、やはり無理があるように思います。なぜなら、問題とすべきは運動の中身だからです。


「門徒推進員規程」第五条には、「地方宗務機関及び寺院は、すべての門徒が連研を受講し、門徒推進員として登録され、活動する機会を共有できるよう、その体制及び環境の整備に努めなければならない」とあります。中央教修の年齢制限

も撤廃され、すべての門徒に学びの場が開かれたことを歓迎する意見がある一方で、ある門徒推進員は、「これでは門推を養成する意義が失われてしまう。本山は門推を増やしてボランティア化しようとしているのではないか。今後の本山の動きを注視したい」と言われました。「愛山護法」（本山を愛する）精神で本願寺に物心両面において尽くす門徒推進員を養成したいとの思惑を感じとり、「おかしい」と指摘して下さる門徒推進員の声を、私は大切にしたいと思えます。

連研・中央教修の本来の目的は「同朋教団への回帰」にあります。そしてそのための変革運動を僧侶と共に進めていく門徒の中核を担って下さるのが門徒推進員です。わが教団・わが寺の維持、存続を目的とした運動ではなく、差別に苦しみ戦争に反対する声を封殺してきた教団の加害責任を担い、克服していく運動を展開していかねばなりません。差別や戦争をはじめとする現実から問われた課題は、いまだ克服されたとはいえないのです。

門徒推進員とは「資格」ではなく「自覚」であるといわれます。さらに言えば、「生き方」そのものであると私は考えます。（僧侶も同じです）門徒推進員としての活動は自由です。これをしたから門推（しなかつたら門推ではない）というものはありません。一人一人が現状に安住せず、日常の現場（家庭・地域・職場）で、基幹運動の理念に基づき行動していくこと、また、自らの行為に対して無自覚にならず、教団・寺院の囲いから解放され、自律（自立）した生き方ができる門徒推進員（門徒）になっていくことが重要だと思えます。もちろん僧侶にも同様の生き方が求められているのは言ってもありません。これからも共に歩んでいきましょう。

これからの日程 (3 / 2 0 ~ 4 / 2 0)

3月		
20	財団理事・評議員会	
21	雨晴苑追悼法要	
22	さくら保育園卒園式	
24	教区委全体会 井波別院役員会 少年指導者研修会 寺青一泊研修旅行	
25	福光教堂総代会	
26	長寿苑ビハーラ活動 定期教区会 教区コーラス練習日	
27	新任保育士研修会・理事会	
28	龍谷高校理事会 特別法務員雅楽講習会	
31	龍谷高校辞令交付式 仏のこどものつどい反省会	
4月		
2	雨晴苑ビハーラ活動	
4	さくら保育園入園式	
8	教区コーラス練習日	
10	布教団総会	
14	常例法座	全国講社大会 (本山)
17	北陸同朋推進協議会	
18	ハンセン病ふるさとネット	仏婦総連盟懇親会 (京都) 仏婦総連盟総会 (本山)
19		
20		

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 k H z .
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

3 / 15 (土) : 筑波 敬道 氏 (山口県・教法寺)

「あなたのおかげで...」

3 / 22 (土) : 高田 未明 氏 (奈良県・金臺寺)

「凡夫と知らされる世界」

3 / 23 (日) : 未 定 (富山教区)

3 / 29 (土) : 高田 未明 氏 (奈良県・金臺寺)

「めぐみをわけあう」

4 / 5 (土) : 松井 正彦 氏 (愛媛県西林寺)

「お慈悲の温もり」

4 / 12 (土) : 松井 正彦 氏 (愛媛県西林寺)

「あなたのおかげで...」

4 / 13 (日) : 土原 行晴 氏 (高岡教区・高参寺)

4 / 19 (土) : 植田 豊 氏 (和歌山県・金徳寺)

「願われている安心」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師：遠山 信 敬 氏

(福井教区若狭組・圓成寺)

ご講題：『 未 定 』

4月から14日が常例法座の日となりますのでお間違いのないようにお参りください。

編集後記

NHKの「うちとせさん」という番組を見てみると大正から昭和の初めには物資が豊富にあったように伺える。そのことを九十年代の方と話していたら、姉の嫁入り時には、タンスいっぱいに着物があつたという話であつた。しかし、戦争へと入っていくと、間違つた方向へ進み豊かな時代が前にあつたとしてもあつたという間におかしなことになるていく。誤つた時代に逆戻りしないように考えていかなければならないと、再び同じ過ちを繰り返してはならないとこの番組を見ながら強く思います。

(担当)

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (175袋) 7,000円

・大 箱 (45袋) 2,000円

・小 箱 (16袋) 900円

お申込み先は・・・〒933-0003 高岡市能町1298

耳浦 康真(本誓寺) Tel.&Fax.(0766)23-9822